

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201427		
法人名	社会福祉法人長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホームさわやか		
所在地	長崎県佐世保市瀬戸越2丁目1788		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年もコロナウイルスの影響で外出支援や外部の方を招いての行事が中々出来ない状態でしたが、入居されている皆様の生活スタイルを重視し、一人ひとりと落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとり、寄り添いを徹底した、楽しく・仲良く・安心して暮らすことが出来るように支援しています。職員も含めた利用者の方々と協力し支え合い、共に生活していると感じられる環境や清潔感あふれる空間を保ち、一人ひとりの能力に応じて自立した生活を共にして頂けるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣にはスーパーや美容室、歯科医院、公民館、薬局などがあり、利便性も良く、馴染みの鮮魚店と契約して魚の骨を抜いて届けてもらうなど地域との関係を築いている。ホーム長が「はなみずき会(認知症の人と家族の会長崎県支部佐世保地区会)」の世話役として活動し、認知症の人と家族のつどいなどを企画し、交流している。自分の思いを伝えるのが苦手な方には、言葉かけの工夫や、信頼関係を構築し職員がその方の意向等を聞き出している。絵を書くのが得意な方にはデッサンノートを渡して風景画を描いてもらったり、塗り絵が好きな方には定期的に塗り絵用の本をプレゼントするなどその方の暮らし方に沿った支援に努めている。職員が冷蔵庫の中を見ながら地域の食材を調達し、3食手作りの食事を提供している。職員用に情報共有ノートを作成し、生活面用と入居者用に分け、会議で話し合いながら良い事例は積極的に取り入れ、入居者支援に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 ゆうあいホームさわやか	ホームとして 常に情報を共有し、毎朝朝礼で、唱和している	ホームの理念を「さわやかな笑い声が溢れる優しい介護」と示し、スピーチロック(言葉の拘束)、ドラッグロック(薬物拘束)、フィジカルロック(身体拘束)と共に掲示し、職員は朝礼時に唱和している。人事評価シートを用いて職員それぞれが理念を踏まえて目標を持ったケアを実践し、半年ごとにホーム長と振り返りながら昇給やスキルアップに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で現在出来ていないが電話でやり取りを共有している	町内会に加入しているが、コロナ禍により地域住民との交流は自粛している。ホーム長がはなみずき会(認知症の人と家族の会長 埼玉県支部 佐世保地区会)の世話役として活動し、認知症の人と家族のつどいなどを企画し、交流している。コロナ禍で近隣の保育園児との交流が減少したが、敬老の日にプレゼントをもらうなど可能な範囲で交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で実地出来てない	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で対面での運営推進会議は出来ていないが、書面会議を行い情報を共有している	今年度の運営推進会議は、直近5回までを書面会議で実施したが、6回目は対面の会議を予定している。運営推進会議は、入居者家族代表、地域包括支援センター職員、家族代表、民生委員、有識者、ホーム職員等で構成し、書面会議の関係資料を送付し、①サービスの提供状況、②職員状況、③身体拘束防止委員会より、④会議・研修等、⑤インフォメーション等、⑥ご意見・ご要望等、⑦次回開催予定案内の議事録を残している。	運営推進会議は書面会議であっても可能な限り各委員との双方向の意見交換が求められることから、書面会議を実施した場合にも、各委員から意見や質問等をもらいやすいよう工夫する事に期待する。また、議事録が閲覧できることを家族へ伝え、必要な家族には送付するなど検討し、家族へ周知することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要なやり取りは電話やメールでのやり取りを行っている	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が出席しており、空室状況を知らせるなど協力関係を築いている。必要に応じて市長寿社会課に連絡を取り相談や助言等を得ている。社会福祉協議会に金銭管理を依頼している方がおり、適宜連絡を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に1回は研修を行い身体拘束をしない及び職員が共通して、言葉使いに注意し、サービスの向上に取り組んでいる	禁止されている身体拘束を実施している方はいない。尚、玄関先の勾配状況や防犯対策の為、玄関は施錠している。玄関先にベンチを設け、職員と一緒に座って花壇を眺めたり会話を愉しんでいる。3か月に1回、身体拘束適正化委員会と研修会を兼ね実施している。職員はスピーチロックに気を付けながら朝礼時に唱和し、意識付けを図っている。家族に同意を得て夜間のみセンサーを使用する方がいるが、職員間で話し合いを重ね、できる限り外していく事を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法令順守より、虐待防止について勉強会を聞いたりミーティングでも意見を出し合っている。虐待と思われる事が見過ごされてないかを話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、現在対象となる利用者がいない為 熟知している職員と知識が浅い職員との差があるが必要な制度があれば、積極的に関係者と相談して活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念やサービス内容・個人情報の取り扱い管理方法などについて説明を行い、理解や納得をして頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者が意見を出しやすい環境作りに努めている。また二か月に1回ホームで行ったことを さわやか新聞でお知らせしている	入居者の身体状態など家族へ密に電話連絡をしている。「さわやか新聞」を2か月毎に入居者の様子が分かる写真を載せ発行している。身体訓練をしてほしいとの家族の要望を踏まえ、指先を動かす訓練や、配膳の手伝いを取り入れ、介護計画にも反映して取り組んでいる。家族から職員の言葉遣いを指摘されたことがあり、ホーム長が全職員に伝え、「親しき中にも礼儀あり」という認識のもと、勉強会を行うなど周知を図っている。	家族等へ重要事項を説明する際には、第三者(外部)評価の受審状況として、実施の有無、評価機関名、評価結果の開示状況を重要事項説明書に明記すると共に、外部評価の受審時には家族へアンケート調査があり客観的に家族意見等を汲み取る機会となる旨を伝えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の時に意見や提案を話し合いチームとして反映している。また、個別相談も行っている。	ホーム長が関連事業所の管理者を兼務しており、介護現場の意見は主に介護主任が集約し、ホーム長へ報告する流れができている。半年毎に人事評価を実施し、ホーム長と面談してスキルアップに繋げている。職員同士の意見がぶつかることもあるが、入居者本位の姿勢を念頭に、意見の反映に繋げている。ハラスメント規程を設け、ハラスメントの防止に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人には考課表にて個々の努力等を伝える事が出来ている。職員の希望を聞き入れサービスの向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期だが、ホーム内での研修会を行って介護のレベル向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークにより、情報交換や活度の取り組みなどを通じて、質の向上に努めている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とご家族様が入居前に見学に来て頂き(困難な場合はこちらから出向き)面談時に意向を伺い、安心してサービスを提供できるように全職員に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり利用者様・ご家族様の意見を聞き、状況を把握する事によって、信頼関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の思いを確認し、状況をふまえて改善に向けた支援の案を、可能な限り対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒にする事によって、共に過ごし、学び、尊重し合い、支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、本人の生活の様子を伝えながら、本人とご家族様の絆を大切にしながらご家族と本人を支援して行く関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで本人が歩んで来た生活を尊重し、慣れ親しんだ物を大切にしている。	コロナ禍であるが、佐世保市中心部に住んでいた入居者には、その近辺を中心にドライブに行くなど工夫している。外での飲食は自粛しているが、コロナ禍収束後には、馴染みの飲食店等へ行くことも検討している。今年は近隣の神社へ初詣に行き、入居者数名ずつ密にならないよう参拝することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、親しく交流できるように、利用者同士の相性・力量を見極め職員が間に入って支援している。それぞれの利用者ができる事を支え合いながらおこなっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の際には、困ったことがあれば遠慮なく相談してほしいという旨を話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞き、日々の関わりの中で本人の表情や言動などを把握し、希望意向を汲み取るよう努力に努めている	現在、失語症などコミュニケーションが特別困難な方はいない。自分の思いを伝えるのが苦手な方には、言葉かけの工夫や信頼関係を構築し、職員がその方の意向等を聞き出している。難聴傾向がある方には耳元で話すようにしている。絵を書くのが得意な方にはデッサンノートを渡して風景画などを描いてもらったり、塗り絵が好きの方には定期的に塗り絵用の本をプレゼンするなどその方の暮らし方に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や電話連絡で、家族や利用者生活歴などを聞き、サービスの向上に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を記録に残し、毎朝の朝礼時に申し送り、報告し情報を共有している。状況に応じて主治医や他の機関に報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや介護記録を職員で共有し本人の心身状態や出来る事等、現状を把握し、職員間で情報の交換を行っている	入居者毎の担当職員制で、1～2名の入居者を受け持ち、モニタリング、アセスメントを担当者が行い、介護計画案を作成している。介護記録には介護計画の該当事項を採番し、職員が常に確認しながら介護計画内容の意識づけに繋がるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時、職員同士でモニタリングをして気付いた事や介護サービス計画を見直している。また本人・ご家族から意見を聞き反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子を記録に記入し、情報を共有している。また気づいた点があれば連絡帳にも記入し実践に活かしている。また、水分量・食事摂取量・排泄の記録も行い情報を共有している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で実地出来てないが、地域にドライブ支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時はすぐに受診できる体制である。身体状況によって受診が必要な場合は家族に連絡し受診している	月2回、協力医による往診がある。ホームで訪問看護事業所と契約し、週1回看護師が訪問し入居者の医療ニーズに対応できるよう取り組んでいる。専門医療機関への受診には家族対応を基本としているが、家族の状況に応じて職員が受診支援している。受診時には職員がケース記録、医療情報等の個人情報をセットにし、いつでも持参できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護と利用者の状態を共有し相談し日々の体調の変化の連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人の情報を提供し、入院中は面会し状態を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族に出来る事、出来ない事を、説明し同意を得ている。また、状況により家族・ドクターと話し合い、チームとして支援に取り組んでいる	契約時にホームで看取りケアを実施できる旨を家族へ説明している。但し、重度化など医療的ケアが必要となった場合は、ホームに常勤の看護師がいないので、関連の特別養護老人ホームに移行する可能性があることを説明している。看取りケアを実施する前には、医師、家族、ホーム職員と話し合い、あらためて家族の意思を確認し支援している。これまで看取り支援を1件行い、家族から感謝の言葉をいただいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命緊急研修に参加している。AEDの場所や使用法を把握している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の防火・避難訓練を実地している、また利用者も参加し訓練を実地している	ホームに隣接して民生委員の住居があり、その方の庭先を通り避難することの許可いただいている。コロナ禍になり、地域住民と一緒に避難訓練をすることはできていない。尚、ホーム長は近隣の民生委員だけでなく、地域住民も参加し、避難の仕方などを地域住民に分かってもらいたいと考えている。地元の消防団の出初式には酒を持参するなど交流をしている。ハザードマップは、職員が目につく場所に掲示している。	昨今の自然災害により多くの被害が発生していることを踏まえ、ホームでも自然災害の訓練を実施することが望ましい。また、危機発生後の事業継続のためにもBCP(業務継続計画)の策定とBCPに基づく訓練も視野に入れ取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳ある暮らしを個々に合わせた、言葉掛けができるように、ミーティングで話し合う等、支援が出来るように心掛けている	入浴時は入居者個別対応にしている。排泄時はトイレのカーテンを閉め、プライバシーや羞恥心に配慮して支援している。排泄失敗時には言葉かけに留意し、排泄臭がした際は「漏らした」などの言葉は使わず、「ちょっと行きましょうか」などと声かけし対応している。ホーム新聞に載せる入居者の写真は、契約時に家族から同意書を得ている。コロナ禍により接遇研修等の外部研修に参加できていない為、今後eラーニング形式で受講できる環境を整備する方針である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとり一人の力に合わせて、言葉掛けし自己決定をしてもらっている。また、表情を読み取って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活をしている。業務ではなく、職員がその時々に合わせて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や季節に合った衣類の交換など家族にも協力してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは利用者と職員が一緒に行っている。また、食事が進まない人への言葉掛けも行っている	食事は3食手作りで、食材は職員が冷蔵庫の中をみて買物し調達している。近くには業務用スーパーがあり利便性も良く、鮮魚店とも契約して骨を抜いた魚を届けてもらうなど関係を築いている。おせち料理や、外注して特別な料理を食べてもらうなど入居者の喜び繋げている。入居者によっては食事の下ごしらえを手伝ってもらうなど残存能力を活かしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、利用者に合っているか、見極めながら提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしっかりと行っている。就寝前には義歯を外して頂き義歯ケースでポリデント洗浄をしている。口腔内の清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し言葉掛けしトイレ誘導や3時間置きに尿取りパットのチェックをしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量や水分量を増やしたり、主治医に相談したり、腹部マッサージをして、なるべく自然排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴で週2回は入浴出来るようにしている、入浴を好まない方には、言葉掛けの工夫をしたりして、入りたいと心が動いたときに直ぐに入れるように支援している	入浴は3名ずつを午前中に支援し、要望があれば午後に対応することもある。入浴を拒否する方には言葉かけを工夫し、職員の中でも言葉かけが上手な方にはその方法を共有したり、本人が入浴したいと思うまで待つなどして対応している。職員は皮膚感染の予防の為、入居者個別にタオルを準備し、本人の皮膚状態を観察し、皮膚疾患のある方には薬剤を塗布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活で活動を充実させることにより、夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助には注意を払い、飲み込みまで確認している。利用者の服薬は個別に包装している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を見極め生活歴などを把握しながら、食事の次分けや後片付け洗濯干しなど、役割や楽しみ、気分転換の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況によるが、個別の希望に合わせて可能な範囲で外出支援を行っている	ホームの玄関先で花壇を見ながら日向ぼっこをして職員との会話を愉しんだり、2階の非常口の外にスペースがありベンチでお茶会をするなど外気浴を行い、入居者の気分転換を図っている。今年は近隣の神社へ初詣に行き、入居者数名ずつ密にならないよう参拝することができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預かり金を預かっており、いつでも買物が出来るよう支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて欲しいと要望があれば時間帯問わずホームの電話を利用して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度・光などを調節している。居心地よく過ごせるよう工夫している	フロアに温度計を設置し、適宜温度調節を行っている。清掃担当職員が月、水、金、土曜日に出勤し、午前10時～12時の2時間に全体的な清掃を行っている。食後には消毒を実施し、窓を開け、換気を行っている。職員と入居者が一緒にクリスマスツリーや、ひな祭りの飾りつけなど季節の飾りつけを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で、リビングで過ごしたり、独りで静かにテレビを見たい方には、環境を整える配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ昔から使い慣れた物を持ってきてもらい居心地よく安心して生活できるように支援している。	居室へ電化製品を持ち込む場合は1品につき1050円を要する。食べ物を持ち込む場合は、一旦ホームで預かり、確認した上で提供している。(1階のフロアで食べてもらうようにしている)殺風景な居室には可能な限り本人の馴染みの物を持参してもらえるよう家族へ促している。全ての居室に加湿器を設置し乾燥予防に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の事を良く知り、どうしたら本人の力で生活していけるかを考え状況に合わせた環境を整えている		